

領域12 インフォーマルミーティング議事録

日時：2026年3月26日(火) 18:00-19:38

場所：オンライン(Zoom)

司会：山口毅

書記：末松安由美

1. 運営体制の確認

現在の運営体制および次年度の運営体制について、以下の内容を確認した。

・領域代表：	山口毅（名大）	2025/04-2026/03
	藤崎弘士（日本医科大）	2026/04-2027/03
・領域副代表：	藤崎弘士（日本医科大）	2025/04-2026/03
	野口博司（東大）	2026/04-2027/03
・次期領域副代表：	野口博司（東大）	2025/04-2026/03
	秋山良（九大）	2026/04-2027/03

領域運営委員

ソフトマター	武仲能子（産総研）	2025/04-2026/03
	佐久間由香（東北大）	2025/10-2026/09
	小西隆士（京大）	2026/04-2027/03
化学物理	末松安由美（西日本工大）	2025/04-2026/03
	笠原健人（阪大）	2025/10-2026/09
	中村有花（新潟大）	2026/04-2027/03
生物物理	井上雅世(九工大)	2025/04-2026/03
	大村拓也（北大）	2025/10-2026/09
	光元亨汰（東大）	2026/04-2027/03

2. 次期領域運営委員の承認

次期運営委員について、以下の案が承認された。

ソフトマター	栗栖実（九大）
化学物理	白石董平（阪大）
生物物理	安田健人（日大）

任期はいずれも 2026/10-2027/09

3. シンポジウム、招待講演の提案

以下2件のチュートリアル講演およびシンポジウムの提案があった。

- ・ 機械学習ポテンシャルのチュートリアル講演(講演者：志賀基之（量研）)
- ・ 電場応答系の揺らぎとダイナミクス(代表：高江恭平)

機械学習ポテンシャルのチュートリアル講演については藤崎さんから説明があった。この内容に対し、計算物理領域代表の岡本さんから計算物理領域と合同にしてほしいとの要望があった。

また、電場応答系の揺らぎとダイナミクスのシンポジウム提案について、高江さんから説明があった。

4. 合同領域の主担当変更について

以下の点について、報告および説明がなされた。

・領域11からの申し出により合同セッションの主担当の変更について申し出があった。引き継ぎや発表件数、発表会場の都合を鑑みて、以下の変更で同意を得たことを報告した。

- ガラス合同 領域12(変更なし)
- アクティブマター合同 領域11(変更なし)
- 生物合同 領域12(以前は春12、秋11)

5. 領域委員会報告

物理学会の領域間の区切りについて定期的に見直すことになっていたが、実際には1度も見直しが行われていない。そのため現在は領域のサイズが不均等になっており、特に小さい領域では運営や委員の選出が困難になっている、という現状が報告された。領域12としては、特に見直しについて意見は出なかったが、今後領域12としての意見が求められる可能性があることが周知された。

6. 若手奨励賞について

2026年3月25日に受賞公演が実施された第20回領域12若手奨励賞および以下の受賞者3名について、選考報告が野口審査委員長からあった。

坂本遼太 (Institute of Physics, Academia Sinica)

坊野慎治 (立命館大学総合科学技術研究機構)

保阪悠人 (Max Planck Institute for Dynamics and Self-Organization)

この中から、C.N.Yang賞およびAAPPS-JPS賞に坂本遼太さんを推薦する予定であることが報告された。

また、前回(2025年秋大会時のインフォーマルミーティング)にて報告されなかった、2024年度退任の選考委員の報告が今回なされた。

2024年度退任の選考委員は以下の方々であることが報告された。

- ・ 藤崎弘士(日本医科大) 2024-2024 (2020-2021に選考委員を務めていたため規定により退任)
 - ・ ソフトマター 柳澤美穂 (東大) 2023-2024
 - ・ 化学物理 古川亮 (阪大) 2023-2024
 - ・ 生物物理 光武亜代理 (日大) 2022-2024
- ※生物物理分野の審査員2名の任期をずらすため特例で3年担当

2025年度退任の委員は2026年度秋に報告予定。

7. AAPPS-JPS Award 受賞報告

2024年度領域12若手奨励賞受賞者で、領域規定によりAAPPS-JPS Awardに推薦された京大の谷茉莉さんが、AAPPS-JPS Awardで受賞されたことが報告された。

表彰式が2026年9月16日(水)午前中(第81回年次大会3日目)に実施される。これに伴い受賞講演の提案がなされた。

8-1. 学生優秀発表賞：応募条件について

応募者が多く、審査員の負担が大きくなり過ぎているため、2025秋の選考過程や結果をもとに検討された条件が提示された。

提案

- ・ これまでに1度以上物理学会で一般講演を行った経験を有すること
- ・ 発表領域や発表形式(口頭・ポスター)は問わない

理由

- ・ 2025秋の受賞者の多くが発表経験があり
- ・ 窓口は急に狭めるべきではない
- ・ 物理学会での発表奨励

この提案に対し、発表経験は領域12での発表に限定してはどうかという意見が出て、議論の結果変更された。すなわち、今後学生優秀発表賞の応募要件は以下とすることが決定した。

- ・ これまでに1度以上物理学会で一般講演を行った経験を有すること
- ・ 領域12での発表（領域12と他領域の合同セッションを含む）に限定、発表形式（口頭・ポスター）は問わない

8-2. 学生優秀発表賞：審査基準について

学生優秀発表賞の、受賞規定で定められた3項目(講演概要の内容、発表・討論のわかりやすさ、発表内容の新規性)のウェイトについて、講演概要の内容のウェイトを減らし、発表・討論のわかりやすさのウェイトを増やしてはどうかという提案がなされた。

現行の比率3:3:3に対し、2:3:3又は2:4:3の案が出された。九大の秋山さんから、発表の新規性についても講演概要の内容と同様に指導教員の手が入りやすいということから、より本人の能力が反映しやすい発表・討論のわかりやすさに重点を置くべきという意見が出され、最終的に山口領域委員長の判断で2:4:3の割合になることが決定した。

8-3. 学生優秀発表賞：GoogleFormについて

学生優秀発表賞への応募について、前回より学会申込時に別途GoogleFormでの申し込みが必要となった。初回の2025年秋の年次大会では半数近くの応募者がFormでの申し込みがなかったが、基本的に次回からはFormでの事前申し込みがないものは失格とすることが報告された。

Formでの入力内容として、以下の点が追加された。

- ・ 応募条件の変更に伴い学会発表実績の報告を必須とする。
※参考資料として口頭・ポスターの別も入力してもらう。
 - ・ 住所の記入欄を追加する。(受賞の際、本部への報告に必要)
- そのほかは現行の内容を踏襲する。

8-4. 学生優秀発表賞：学生賞セッションについて

これまで通常講演と同様に実施していた学生優秀発表賞の対象講演について、前回大会から各分野でまとめて1つのセッションとする学生賞セッションが導入された。この学生賞セッションの利点は以下である。

- ・ 審査員の確保がしやすい、審査員の手間が軽減される
- ・ 審査員あたりの審査数を増やすことで、審査員の当たり外れの影響を低減
- ・ 対象講演を連続させることで候補者間の比較を容易にできる

この形式については賛否両論あるが、来年度も継続して現在の学生賞セッションを設置する方法で実施しスクリーニングする。応募者数の変化を見て今後の対応を検討することになった。(応募者数によって、3分野の間で合同実施の可能性もある。)

9. 領域の広報・連絡体制について

これまで各分野のメーリングリストを使って連絡を行っていたが、生物物理ML(BPML)の利用停止に伴い、領域12MLを運用開始したことが報告された。領域12MLは学会本部で提供されているサービスで、経費は本部負担となる。

現在、連絡は各分野MLと領域12MLの両方に流しているが、今後は領域MLに統一する予定であることが報告された。

この領域12MLの運用規定について、現行では領域12で発表資格を有する物理学会会員と生物物理学会会員となっているが、変更案として領域12関連分野の研究・教育に関心がある方(会員資格は不要)が挙げられた。理由としては、間口を広げることで領域の広がりを図るためであるが、物理学会の経費で非会員向けにサービスを提供することの是非が問われた。

議論の結果、藤崎さんがまず物理学会本部にまず非会員を受け入れて良いかを問い合わせ、了承が得られれば非会員も受け入れることになった。これに伴い本部の許可がおり次第、今年度末で運用停止となるBPML登録者を可能な限り領域12MLへ案内する。

10. オンライン大会におけるポスターセッションについて

今大会から、オンライン開催時のポスターセッションの実施方法が変更になった。1分程度のショートプレゼンの後にブレイクアウトルームに分かれて発表するという形式になったが、初回は特に実施方法などの具体的な指示がなかったため、今回の実施を通して参加者の意見を募り、以下のような意見が出た。

- ・ ショートプレゼン用の一枚スライドを作成するように指示した方が良い。
- ・ 交代時の共有切替の時間節約のため、事前にショートプレゼンスライドを集めることを考えてはどうか。
- ・ ショートプレゼン自体はよかったが、発表者以外の参加者が少なかった。
- ・ ポスター発表者以外へのショートプレゼンの案内が不十分だった。
- ・ ショートプレゼンの認知度が上がれば、参加者が増えるのではないか。

本部からの意見徴収があった場合には、以上のような意見が出た旨を報告する。

11. その他

計算物理領域代表の岡本さんから、計算物理領域の発表数が多かったことについてお礼の言葉があった。計算物理領域の設置による他分野の講演数への影響もなかったことが報告され、合わせて今後の計算物理領域との合同発表のお願いがあった。